

## 市民との意見交換会 概要(R8.1.18民生教育常任委員会)

発言者	ご意見等の概要	委員の回答
1人目 男性	<p>○福祉事業に関する市の支援等について</p> <p>私は現在、加須市のNPO法人の仕事に就いています。障害者自立支援法や、介護保険法ではカバーしきれない方を対象にサービスを行っているのですが、働きながら実感するのは、障害者自立支援法によるサービスと、介護保険法によるサービスの量的・質的な差があまりにも大きいということです。また、法体系が縦割りになっていて、垣根が高いとも思います。そういった格差や垣根をできるだけ低くしてほしいという思いがあり、本日は参加させていただきました。高齢の方も、障害がある方も、みんなが公平にサービスを受けられるような仕組みづくりが課題と考えています。</p> <p>また、福祉分野に関する一番の課題は、移送をはじめとする移動の支援です。外出が困難な方にとっては、買い物や病院への移動・通院は明日明後日の問題ですが、需要に対して介護をする側の数が少なく、介護する側の高齢化も進み、緊迫した状況を感じています。加えて、介護事業者間の情報交換や課題の共有が希薄な状況もあります。我々スタッフは利用者の方と近い関係にあるので、利用者の方が求めるサービスについて把握しているという強みがありますが、そういった貴重な経験などを、事業者間で共有しあい、それを指導当局の方に直接お伝えできる機会が、現時点ではありません。意見交換会やケース会議などについても、早急に設けるべきだと思います。</p> <p>そのことに関係しますが、例えば加須市が福祉に関する新規事業を立ち上げる際には、事業者を含めた関係団体と協議・打ち合わせを十分にしてほしいです。市からお願いされるパブリックコメントについても、意見を述べる人はほとんどいないという印象です。せっきやく市の方々も苦労してアンケートを実施していても、それに十分に回答できる余裕がなく、追いついていないというのが状況です。</p> <p>できるだけ当事者あるいは関係団体に寄り添ったかたちで声を聴く姿勢をとってほしいと思っていますので、よろしくお願いいたします。</p>	<p>【大内委員長】</p> <p>日頃から介護支援や高齢者支援にご尽力いただき、ありがとうございます。移送支援の問題や、事業者間での意見交換や情報共有が不足している問題等、大変重要なご意見をいただきました。</p> <p>加須市で行っている事業としては「ちょこっとおたすけ絆サポート事業」があり、身の回りのお困りごとのお手伝いをしていますが、その利用自体も難しい方がいらっしゃるということは承知しております。</p> <p>いただいたご意見は今後の課題として受け止めさせていただき、議員の方でも調査研究を進めたいと思います。</p>
2人目 女性	<p>○防災無線を使った黙とうの放送について</p> <p>私たち、新日本婦人の会加須支部は、こどもの幸せや平和と暮らしの向上などを願い、全国草の根で活動している、国連認証NGOの女性団体です。</p> <p>昨年12月、加須市議会が「戦のない世界を 核兵器のない地球を」という核兵器禁止条約の参加批准を求める意見書を可決いただいたことに、心より敬意を表するとともに、そのような市議会の皆さまとともに暮らす住民として誇らしさを覚えることをお伝えしたいと思い、参加させていただきました。</p> <p>加須市のホームページには「平和の祈り【1分間の黙とうをお願いします】」という呼びかけがあります。このような素晴らしい取組をさらに発展させるため、原爆の日・終戦の日に合わせて、防災無線で市民に呼びかけていただけたらありがたいと思います。</p> <p>私たちの願いは、若い世代に戦争の悲惨さを伝え、二度とそのようなことが起こらないようにすることです。</p> <p>そのひとつのきっかけとして、例えば夕方の放送のように、中学生に放送の担当をしてもらい、市民に伝えられたら一層意味があるのではないかと思います。いかがでしょうか。</p>	<p>【齋藤委員】</p> <p>昨年12月に意見書が可決される以前に、我々加須市議会では、実際に被爆されたの方をお招きして、原爆のむごさを直接お聞きしたところでした。</p> <p>実は私も、被爆された方から当時のお話を聴くという体験は初めてで、様々な資料や絵などを拝見しましたが、言葉が詰まるほどむごい、悲惨なものでありました。</p> <p>ご提案の、原爆の日や終戦の日に合わせて行政無線で平和の大切さを呼びかけるというのはとてもよいアイデアだと思います。</p> <p>改めて執行部にもお願いし、実現できるように努めていきたいと思っています。</p> <p>【松本委員】</p> <p>日本政府に核兵器禁止条約の参加批准を求める意見書が加須市議会で賛成多数で可決されたことは、本当に画期的なことだと思います。</p> <p>加須市議会では11月に「被爆者の声を聴く証言会」を開き、日本原水爆被害者団体協議会の一員の方からお話を伺いました。</p> <p>その後の12月議会での可決は、その時に伺ったお話が本当に心に迫るもので、二度と核兵器を使ってはならないという、議員の強い思いの表れだと思います。</p> <p>加須市は「平和都市宣言」で、唯一の核被爆国として、核兵器等の廃絶を強く求め、戦争や紛争が繰り返されることのないよう、平和の尊さを訴え続けると宣言しています。</p> <p>頂いたご提案について、若い世代に平和の尊さを伝えるということは、本当に大事だと思いますので、引き続き議会の方でも、平和をつなぐ取組を続けてまいりたいと思います。</p>

発言者	ご意見等の概要	委員の回答
3人目 男性	<p>○加須市の文化財について</p> <p>加須市の文化財について、予算がつけられていない印象であり、疎かにされていると感じています。</p> <p>騎西城の開館日も少なく、有名な十六間筋兜も死んだままです。未来館でもイベント等に対応する職員が足りません。三県境についても、加須市民以外の観光協会のボランティアの方が一生懸命やってくださっているという印象です。</p> <p>加須市には、観光の目玉になりうる文化財や施設等が多くあるにも関わらず、それらを活かしてきていないのではないかと思います。</p> <p>例えば、現在、小学校の統廃合の話が出ています。統廃合で使われなくなった学校を、そのまま加須市の歴史等を紹介・展示する資料館として活用することを検討するなど、文化財に熱心に取り組んでほしいと思いますが、いかがでしょうか。</p>	<p>【新井委員】</p> <p>文化財への取組、歴史に対する取組については非常に重要であり、たしかに加須市は少し足りないところがあるかもしれません。</p> <p>北川辺地区の資料館もほとんど眠っている状態で、また、三県境や渡良瀬遊水地の活用等についても、いかに構成市等と連携をしながら取組を進めるか、ボランティア人員の問題も含め市に要請し、同時に我々議員でも考えていかねばならないと思っています。</p> <p>【山本委員】</p> <p>三県境のボランティアに関しては、ボランティア講座を開設し、周知を行っていますが、実際にボランティアガイドの方にお話をお伺いしたところ、板倉町ではすでにボランティアサークルのようなものが立ち上がっており、佐野市へ視察にも行かれたということで、たしかに加須市は少し出遅れているという感じがします。</p> <p>私も少しずつ、ボランティアの養成について頭をひねっているところですので、もう少しお待ちいただければと思います。</p> <p>また、加須市には斎藤与里さんという偉大な画家がおります。現在、作品はパストラルかぞにありますが、市民の方がいつでも見られる状態で展示することについて、過去にも市長に要望をしておりますが、作品を管理するための温度や湿度、人材の確保などの問題があり、なかなか進まないのが現状です。</p> <p>加須市にはたくさん文化財があり、偉人がおり、作品があります。それらを活用しながら加須市を少しでもアピールできるようにできればというのが私個人の考えですので、今後とも尽力していきたいと思っています。</p>
4人目 女性	<p>○登下校中の熱中症対策について</p> <p>学童指導員をしています。</p> <p>昨今の暑さについて、6月上旬から9月頃まで、学校から子どもたちが帰ってくると、まるでバケツの水を頭からかぶったくらいに汗をかいており、ランドセルの下もびしょびしょです。</p> <p>保護者にはFAXやメールで、外遊びは控えるようにという熱中症警戒アラートのお知らせが来ますが、その環境の中を子どもたちは歩いて帰ってきています。</p> <p>数年前の父母会でもそういった話題が出て、レンタカーを借りて子どもたちを送迎するという話も出ましたが、学童に来ている子どもだけを迎えに行っても解決にならないので、何かいい方法はないかと考えているところです。例えば通学途中に避難所を作るなど、子どもの暑さ対策を考えていただくとありがたいと思います。</p> <p>今のところ重症になる子はいませんが、これからさらに暑さが増していくと思いますので、そうなる前に対策をお願いしたいです。</p>	<p>【大内委員長】</p> <p>現在、地域のコミュニティセンターや公共施設では、夏の暑い間にはクーリングシェルターのように利用し、ぜひ涼んでくださいという取組をしています。こどもからお年寄りまで、どなたでも利用できるよう開放していますので、その周知を含め、子どもたちが通学しながらこのような施設を利用する方法などを模索していきたいと思っています。</p> <p>熱中症から子どもたちを守る対策は急務と思っています。貴重なご意見を、今後もしっかりと検討させていただきます。</p>
5人目 女性	<p>○小学校体育館のエアコン設置について</p> <p>中学校全8校の体育館に冷房設備が整うということで、子どもたちも喜んでのことだと思います。</p> <p>一方で、小学校の体育館のエアコン設置についても急いでほしいという思いがあります。</p> <p>埼玉県内の小学校の先生にお聞きしたのですが、今年の夏は特に熱く、子どもたちは外で遊ばせませんでした。室内にしかいられなくなり、ストレスが溜まって、教室の中で争いが絶えないということもあるそうです。</p> <p>おそらく加須市の中でもこういった事例はあるのではないかと思います。</p> <p>ぜひ、小学校の体育館の冷房設備の早期整備をお願いしたいです。</p>	<p>【大内委員長】</p> <p>小学校体育館のエアコン設置については、私も含め多くの議員が一般質問等で訴えております。現在加須市では、小学校統廃合が進んでおり、そのスケジュールが明確にならないうちはなかなか取り組めないという答弁もありました。しかし暑さは年々厳しくなっていくと予想されますので、いち早く設置に向けて進めていきたいと思っています。</p> <p>【齋藤委員】</p> <p>私も小学校の体育館等で行われる夏のイベントに参加することがありますが、窓を全開にして、スポットクーラーを置いても本当に暑いと、身をもって実感したところです。</p> <p>いち早く、小学校体育館にもエアコン設置を導入できるよう、我々議員も頑張りたいと思います。</p>

発言者	ご意見等の概要	委員の回答
5人目 女性	<p>○図書室のエアコン設置について</p> <p>この夏、いくつかの学校訪問を行いました。図書室や特別教室に冷房がない学校が多いと感じました。順次進んでいくことだろうと思いますが、例えば羽生市ではすべての図書室で冷房が整っているというお話も聞きます。子どもたちが健やかに、安心して、ゆっくり過ごせるような環境整備をお願いしたいということで、要望させていただきます。</p>	<p>【大内委員長】 加須市では学校教室や特別教室にはエアコンが設置されていますが、図書室にはありません。こちらも一般質問をさせていただいたことがありますが、こどもの本離れや活字離れの現状もあり、子どもたちが読書する環境、勉強する環境を整えるという意味でも、図書室のエアコン設置は必要ではないかと教育長にもお願いしているところです。予算がかかることではありますが、子どもたちが学びやすい環境づくりはやはり重要です。他の自治体に遅れをとることがないように、進めてまいりたいと思います。この問題については加須市でも多くの議員が取り組んでいます。最後まであきらめずに取り組みます。</p> <p>【齋藤委員】 図書室にエアコンがないことは問題と捉えています。暑さ対策として、例えば騎西中学校では、以前パソコン教室として使用していた、エアコンのある教室を図書室に変更することで、経費のかからない対応を行いました。市内の学校で一斉にエアコンを設置するというのは難しいところもありますので、各学校内でできる工夫をしながら、引き続きエアコン設置を要望していきたいと思います。</p>
6人目 女性	<p>○がん検診内容の充実について</p> <p>加須市はがん予防に対する様々な取組をしていますが、子宮がん検診については頸がんのみです。私は毎年必ず検診を受けていますが、50代になった時に先生に、50代になったら頸がん検診だけでなく、体がん検診を受けなければ意味がないと言われ、以来、両方受けるようにしています。加須市でもぜひ、頸がんだけでなく、体がん検診も進めていただきたいと思っています。</p> <p>また、乳がん検診についてもマンモグラフィのみです。最近では、日本人は乳腺が濃い人が多いとテレビでも言われ始めました。マンモグラフィとエコーどちらも受けたとしても100パーセントではありませんが、それでも両方受けないと見過ごされることが多いということで、医師の先生が不足しているなどの問題もあるかと思いますが、検討していただきたいと思っています。</p>	<p>【大内委員長】 以前まで、加須市の乳がん検診はマンモグラフィと触診、エコーがあったこともあります。なくなってしまったタイミングで、その理由について一般質問をいたしました。答弁としては、エコーだと1人あたりの時間が非常にかかり、希望者全員の検診が難しいためということでした。せめて希望する方だけでいいのでと働きかけているところですが、なかなか実現しません。また、子宮体がん検診についても、検診を自費で受けたというお話をよく伺います。</p> <p>ただ、加須市は近隣自治体と比べ、がん予防に対して本当に手厚く取り組んでおりまして、子宮頸がん検診については毎年20歳以上の方に対し無料で行っており、乳がん検診も自己負担を無料としました。がんから命を守るための施策を講じてはいますが、すべてを満足できるところまでには達していません。さらに検診内容等の充実について進めるよう、今後も働きかけていきたいと思っています。</p> <p>【栗原副委員長】 私がまだ議員になる前、市の担当者とお話する機会がありました。乳がん検診では触診、マンモグラフィ、エコーをぜひ取り入れて欲しいということをお願いし、始めたのですが、時間がかかりすぎるという問題がありました。また、受診者数が年々増えたというのがあります。1日で設定する枠を大きく超えてしまう状況が続き、結果として、エコーが難しくなっていました。</p> <p>子宮がん検診についても、体がん検診は頸がん検診と比べ、かなり時間がかかるため、婦人科検診で行う内容は頸がん検診のみとなってしまいました。様々な課題があり、現状としては厳しい面もありますが、検診内容の充実が市民の命を守る大切な取組です。今後も議員として、積極的に働きかけていきたいと思っています。</p>

発言者	ご意見等の概要	委員の回答
6人目 女性	<p>○外出困難者の発熱時の対応について</p> <p>私は約10年前から移送サービスのNPO法人のスタッフとして働いています。コロナ禍で大変だったことは、移送サービスができないことです。インフルエンザやコロナ、これからまた新たな感染症が出てくるか分からない中で、ひとり暮らしの方や、夫婦で住んでいるけれど高齢で、他の家族が近くにいない方などは、発熱した場合でも発熱外来に行けません。発熱した方を移送できないんです。コロナ禍でそのような場面を多く見てきたので、それを解決する取組やシステムが加須市にあるのかと心配しています。例えばファストドクターの導入や、昔のように往診を復活させるような仕組みがあればと思いますので、ぜひ検討していただきたいです。</p>	<p>【栗原副委員長】 加須市にある在宅医療専門クリニックの先生がおっしゃるには、外出が難しい方については、往診のかかりつけの先生と、在宅医療の先生とでうまく連携されてしており、発熱時には在宅医の先生がお宅を訪問することもできるそうです。外出が難しい方を外の病院に運びだすのは大変なことだと思うので、自宅で完結するようであれば、在宅医療専門のクリニックの先生を呼んでいただき、診察されるのもひとつの手かなと思います。全体的な課題は依然として残りますが、今後も調査研究を続けてまいります。</p>
7人目 女性	<p>○福祉事業に関する市の支援等について</p> <p>NPO法人を立ち上げ、10年になります。主な業務は、介護保険法や障害者自立支援法では賅えない部分のサポートです。利用者の方は30代から90代まで様々いらっしゃいますが、問題は、私たちのところに頼まなければならぬ現実が実際にあるということなのだと思います。今後、介護保険制度の改正が行われますが、要介護1・2の方が保険から外れたら、今まで訪問介護を受けられていた方は誰に頼めばよくなるのだろうと思います。私たちメンバーの人数も限られています。また、運営についてもほとんど会員さんから頂くお金で賅っている状態です。他の事業所等でも同じような状況があると思いますが、私たちとしては他団体とのつながりがないので情報の共有などが難しく、また、こういった事業をやってみたいと思う人がいても、法人立ち上げ等のハードルは高いのだろうと思います。私たちと同じような気持ちでやっていらっしゃる他団体の方もきっといらっしゃると思うので、人材確保のための周知や、福祉事業に関して興味がある人に積極的に声かけをするなど、市としてももっと力を入れていただければと思います。</p>	<p>【大内委員長】 介護に関する事業団体へ市の方で支援を行ってほしいというご要望については、ご意見として賜りまして、しっかりと調査研究も行き、進められるところは早急に進めていきたいというふうに思います。また、そういった事業に対する周知についても重要と認識しております。今度とも尽力いたします。</p> <p>【松本委員】 高齢者実態生活調査において、事業所における課題改善に対するご意見を把握する予定です。介護人材の確保は喫緊の課題と認識しています。まずは調査にご協力いただけると大変ありがたいと思います。</p>
8人目 男性	<p>○議場こいのぼりコンサートについて</p> <p>議場こいのぼりコンサートについて、開催の時間帯が悪いと思います。一般質問前の開催としていますが、昨年の様子では、傍聴席にコンサート出演者の応援団の方が多くいらっしゃって、コンサートを終え、休憩に入るとほとんどの方が帰られてしまうのではないかと思います。議場こいのぼりコンサートの趣旨は、市民の方に議会を身近に感じていただくことだと思っています。過去の事例を踏まえ、議会が終わった後に開催することも検討していただきたいと考えています。</p>	<p>【大内委員長】 議場こいのぼりコンサートは過去3回とも9時30分から行い、11時から一般質問を開始しています。おっしゃる通り、議場コンサートは、市民の方に議会をより身近に感じていただくことを目的に始めたものです。開催実現に向け、古河市のコンサートを視察させていただいたことがあります。当時の古河市でもやはり一般質問前にコンサートを実施していました。理由としては、一般質問が終わる時間が読めないことが挙げられます。事前にコンサートのお時間を市民の皆さまにお示しすることができなくなり、周知も難しくなります。コンサート自体は、前回もほとんど満席になる状態で、大変人気があります。開催の時間帯については、なるべく市民の方のご意見に沿った形で進めてまいりたいと思いますが、本日具体的なお答えをお示しするのは難しいことをご容赦ください。</p>
8人目 男性	<p>○加須市の文化財について</p> <p>現在、加須市の文化財や資料館などは地区ごとにばらばらに配置されています。そこで、加須市に関連する資料や文化芸術作品などを集約できる施設を検討されてはいかがかと思えます。将来的に、子どもたちに誇れる加須市でありたいという気持ちがあります。文化的・教育的なことに重きを置いておくべきと思うので、ぜひお願いしたいです。</p>	<p>【大内委員長】 議員になって間もなくの頃、お話にあったような、加須市の歴史等がひとつに集約された資料館がほしいというお声を頂いたことがあります。市民プラザのスペースで展示する予定でしたが、当時の郷土史研究会の方から、そのような小さな規模ではだめだというご意見を頂きまして、白紙に戻ってしまったという経緯もございます。お話のとおり、たしかに合併後、騎西地域には騎西城、北川辺地域には資料館、そのほか各地に文化財等が点在しているという状態です。小学校校舎跡地の利用についてのお話もありましたが、そのようなことも含め今後の検討課題だというふうに思っていますので、ご意見として受け止めさせていただきます。</p>

発言者	ご意見等の概要	委員の回答
8人目 男性	<p>○北川辺診療所について</p> <p>北川辺診療所について、医師の先生が退職され、休診が続いています。行政の方で一生懸命募集されているのは分かりますが、やはり問題は給与だと思います。給与や条件が見合わない、人材は集まらないのではないかと心配しています。北川辺診療所については、2～3千件のカルテがあり、それを分散させるとなると、近隣の医院さんでも満杯状態になってしまう状態です。しかし地域の方は、病院が存続されるのを願っているところだと思いますので、それが叶うよう努力してほしいと思います。</p>	<p>【新井委員】</p> <p>ご指摘のとおり、医師の先生への待遇の問題はあると思います。しかし、現在は日本全体で見ても医師不足という状況があり、特に埼玉県の場合、10万人当たりの医師の数はものすごく少ないです。このような国全体の背景もありますが、加須市の北川辺診療所については、済生会病院の院長さんや、北埼玉医師会へもお願いをしたり、また募集の要項についても尽力しているところですが、現時点で後任の医師は見つかっておりません。診療所の医師確保について、最大限努力しなければならないことは強く認識しているところですので、引き続き、執行部の方にもお願いしてまいります。</p>
8人目 男性	<p>○市議会だよりの全世帯配布について</p> <p>かぞ市議会だよりについて、加須市議会基本条例では全世帯にお配りするという文言がありますが、市議会だよりの配布は各自治体に委託しています。つまり、自治会に入られていない方には届いていないということです。市議会だよりは、議会への興味・関心をもってもらうことが一番の目的だと思いますので、ぜひ全世帯配布を実現できるよう、対応をお願いしたいと思います。</p>	<p>【山本委員】</p> <p>市議会だよりについて、全世帯配布には達していないという事実については認識しています。現在の対応としては、市内の公共施設等には必ず架配しておりますので、それをお取りいただくようご案内しているところですが、外出が難しい方などには対応しきれていないかもしれません。市議会だよりで、市民の皆さまにお伝えしたい情報を多く掲載しています。全世帯に配ることを目標に取り組みますが、予算の関係等、執行部とも相談し、方法を考えていきたいと思っています。</p>
9人目 男性	<p>○災害時の避難訓練について</p> <p>災害時の避難訓練について、市は毎回同じことをやっており、しかも参加者も同じであるという印象です。実際に災害が起き、避難したとして、避難所に職員さんはいないと思います。防災士の資格を持った方がいらっしゃるかもしれませんが、その時に、間仕切りをどうするかが、まず問題であると思っています。避難されてきた方の中には、病気の方や、女性、乳児を抱える方も当然いらっしゃると思います。その方々に対し、間仕切り、かくしをどうするのかという視点が、訓練では欠けていると思います。また、現状、小学校にはクーラーがないので、避難時に具合が悪くなった場合にどうするのか。それらに対応するためのマニュアルはあるそうですが、実際に実行できるのかという疑問があります。</p>	<p>【大内委員長】</p> <p>令和7年度の広域避難訓練では水害を想定し、避難所までバスで移動する訓練を実施しました。訓練上は、マイナンバーカードなどを活用し、スムーズな受け入れができたと感じています。防災士の一員として私も参加させていただきましたが、今までにやったことのない訓練も実施していると思います。しかし自治会ごとの訓練となると、炊き出し中心になってしまうところがありますし、訓練自体を実施していない自治会もあります。いつ起こるか分からない災害にしっかりと対応する必要があるということは十分に認識していますので、訓練したことが実際に役に立ったと思えるような、実のある訓練を実施できるよう尽力します。また、避難行動マニュアルについては、私も一般質問をした経緯がありますが、誰が見ても分かるような内容にさせていただくよう、お願いしたところです。ペット同伴等も含めた内容も提案しているところですので、今後もしっかり進められるよう、取り組んでまいります。</p>

発言者	ご意見等の概要	委員の回答
9人目 男性	<p>○ジム施設について</p> <p>人生100年時代である今、高齢者に対する健康支援に努めてほしいと思います。テレビでライザップのコマーシャルを見ました。大村崑さんという方が、86歳の時にご夫婦でライザップを始められたそうで、非常にお元気でいらっしゃいます。そこで、加須市に高齢者向けのジムを作ることを提案します。場所としては、加須駅周辺がいいのではと思います。使用料をできるだけ安価にして、高齢者が利用しやすい施設があればと思うので、ご検討お願いいたします。</p>	<p>【大内委員長】</p> <p>病気になる前にしっかり対策をし、健康であり続けるための施策について、昨年、私も一般質問をさせていただきました。もちろん健康診断や予防接種、適度な運動など様々な対策があげられますが、市民の方おひとりおひとりが、健康寿命を延ばすという自覚を持つこと、そして元気に過ごせるような環境整備を整えることは大切だと思っています。また、かぞマインも撤退してしまい、その跡地については多くのご意見を頂戴しているところです。もう一度スーパーを入れてほしいというご意見や、市役所の支所的な役割をもった事務室があればというご意見なども頂いています。今後、まずは財源が必要になります。老朽化した建物をどうやって活用するのかということも含め、しっかり考え、加須市が廃れないような駅周辺のまちづくりを実現させたいと思います。</p>
9人目 男性	<p>○株式会社かぞ農業公社、株式会社米米倶楽部について</p> <p>加須市は、株式会社かぞ農業公社や株式会社米米倶楽部に出資していますが、やめてもいいのかなという意見です。4月から学校給食費が無償化となる見通しなので、せっかくなかぞ公社があるのなら、そこで学校給食に使う野菜等を作らせ買い上げるなど、そういう協力の仕方をしてほしいと思います。</p>	<p>【大内委員長】</p> <p>学校給食に提供できるような野菜を作るなど、貴重なご意見として受け止めさせていただきます。</p>
10人目 男性	<p>○中学校部活動の地域移行について</p> <p>中学校部活動の地域移行・地域展開については、学校の働き方改革としても有効で、こどもにとっても、学校の枠内にはない活動メニューが増え、専門性のある指導者がいて、設備が整った場所で活動できるなど、メリットが多くあります。実現するとういなど思っているのですが、移動手段について課題が残ると考えます。今までの学校内での部活動なら保護者の送迎等は不要ですが、地域移行での活動となると、どうしても車がないと難しいのではないかと思います。移動手段がないために部活動に参加ができないということがないように、足の確保が今後の課題となると思いますが、そのことについてお考えをお聞きたいです。</p>	<p>【山本委員】</p> <p>中学校の部活動地域移行については当初、学校に地域の方を招き、指導いただくという方針だったと思うのですが、先生と地域の方との連絡調整がなかなか難しいようです。学校の先生のごどもたちに対する思いと、専門性のある地域の指導者の方との思いがずれてしまった時に、学校がこどもたちにいい影響を与える環境でなくなってしまうのではないかとこの心配が先にきてしまったというお話も伺っています。現在、平成国際大学に地域スポーツクラブを立ち上げ、ポッチャやダンスなどの種目を設けていますが、お話にあったように、移動の問題が大きく、自転車ではとても通えないこどもたちも出てくると予想されます。デマンドバスなどが定期的にこどもたちを送迎してくれるなどの方法が取れればと思いますが、今現在でお答えするのは難しいところです。こどもたちが運動に親しみ、さらに専門性を高めたいという思いがあるなら、大人の我々はどうしたら実現できるのかということを考えなければなりません。ご意見やお知恵があれば、ぜひ議員に伝えていただき、みんなでこどもたちを育てるような地域展開ができればと考えています。</p>

発言者	ご意見等の概要	委員の回答
11人目 男性	<p>○補聴器の購入補助について</p> <p>配布された市議会だよりによると、松本議員が加齢性難聴について一般質問をしています。補聴器を購入する時の補助制度を創設するよう提案しており、市長は検討しますという答弁ですが、これはぜひ導入してほしいと思っています。</p> <p>難聴は認知症のリスクを高めるという研究もあり、他自治体でも補助をはじめめる動きがあります。このほか、健康診断に難聴の検査項目を入れるなど、難聴予防の対策をお願いしたいです。</p>	<p>【松本委員】</p> <p>年を重ねると、どうしても耳が聞こえにくくなりますが、そういった方が人と接するのを億劫に思わないように、家に閉じこもってしまわないようにという思いから、補聴器の購入補助を要望したところです。引き続き、議会でも取り上げていきたい課題であり、今後も進めてまいりたいと考えています。</p>
12人目 女性	<p>○令和7年第3回定例会での討論の中断について</p> <p>令和7年第3回定例会において、提出された請願の賛成者は宮代議員のみでした。議会の透明性を図る姿勢について、宮代議員とその他の議員さんの立ち位置が大きくずれていると感じ、心配しているところです。</p> <p>その心配がさらに大きくなったのは、令和7年第3回定例会の最終日に宮代議員がこの請願について討論をした際、当時の議長により席に戻るよう指示があったことです。討論中に複数回、促されたと記憶しています。</p> <p>ここではその請願の内容ではなく、あくまで外形的なところの質問をしたいです。</p> <p>当日、私は自宅でインターネット中継を見ていました。宮代議員の討論中、複数の議員の方が声を発していました。議長が中断を言い渡し、休憩となりましたが、まず中断の理由について、議長権限を行使したその理由を説明する必要があったのではないかと考えますが、いかがかということです。</p> <p>また、休憩が明け、宮代議員の討論から再開すると思っていたのに、そうではなかった。その理由についても、説明がなされたなかったのはなぜなのか。</p> <p>以上2点について、議会運営について疑問を持ちましたので、お答えいただきたいと思えます。</p>	<p>【竹内議長】</p> <p>令和7年第3回の宮代議員の討論では、当時の議長が宮代議員に対し席へ戻るよう指示した後、休憩をして、これからの対応について検討しました。</p> <p>インターネット中継をご覧になっている方が、議会の休憩時間に何をしているのか分からないと思われるのはその通りだと思います。</p> <p>当時、私は議長職にありませんでしたが、頂いたご意見はしっかり受け止めさせていただきます。</p>